

わが職場

瀬戸内の工業化は岡山県を中心とした繊維工業に先行され、紡績から織布・縫製品工業、また綿から化繊、合繊と多彩な進展を遂げてきました。

瀬戸内工業地帯に派生した織物技術は、畳縁、ベルト、テープ、組紐などの細巾織物を成長させ、当社の製造する繊維スリングに活かされています。当社は昭和23年、善通寺市生野町にて秋山織物商店として創業、女性のスカートの芯であるインサイドベルトなどの細巾織物の製造を開始。昭和28年には丸善織物株式会社を設立、昭和36年に現在の善通寺市金蔵寺町に社屋を移転しました。

四国地方唯一の細巾織物工場として当初、主にスポーツ・レジャー関連の服飾用ベルトを製造。その後、高度経済成長や時代の変革とともに営業品目を増やし、建築・オイルフェンス等の産業資

材のベルト製造へと進出、関連のあるミシン縫製加工も始めました。昭和53年から繊維スリング、平成元年よりベルト荷締機の製造を開始、主力商品服飾より荷役・物流関係に移行。現在、国内最大規模の生産力を持つ、繊維スリングのJIS表示認定工場として製造と販売をおこなっています。

繊維スリングとは「ベルトスリング」「ラウンドスリング」に代表される、ナイロン、ポリエステル、ポリプロピレンなどの化学繊維を使用した強靱な繊維製の吊り具で、クレール及び巻上機の玉掛け作業などに使用します。柔軟な吊り具である繊維スリングは今なお主流のワイヤロープやチェーンに比べ、吊り荷に傷がつきにくく、軽量で作業性がよいなどの特長を持ち、現在までにあらゆる市場に受け入れられています。

しかしながら繊維製品である性質上、クレールによる玉掛け作業中に切断事故の懸念があり、特に鋭利な角（シャープエッジ）

の荷に対して使用するときには、バランスを崩して発生する横滑りに注意するなどの安全対策が必要です。シャープエッジが「刃物」となりスリングを切断する恐れがある為です。JIS規格の使用基準でも、「角張った荷には必ず当てものを使用し、横滑りさせないよう」に注意しなければなりません。」と規定されています。

私たちは繊維スリングを製造するものとして、自分たちが作った商品が悲惨な切断事故を起こすことを見過ごすことはできません。最も確実に有効な予防策は、「コーナーパット」などの当てものを使用することです。どうか皆様も玉掛け作業で繊維スリングを使用する際は、荷をバランスよく吊り上げて横滑りさせない慎重な「安全作業」を心がけてください。

丸善織物株式会社

総務部 山下 雅士